

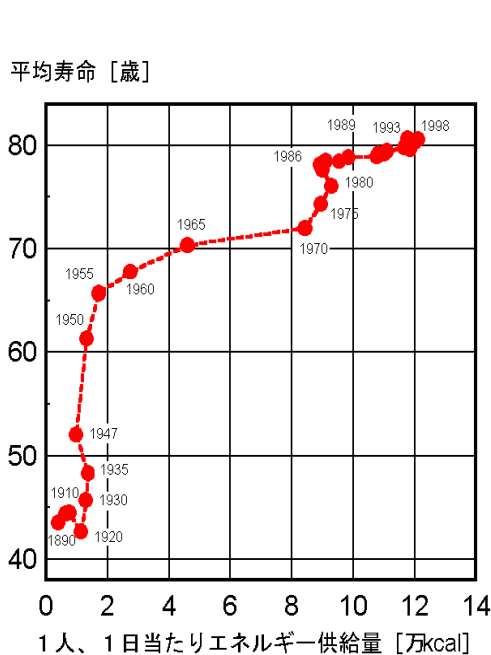
「人と自然との共生」懇談会における統合的私見

小長谷有紀

2011年12月19日

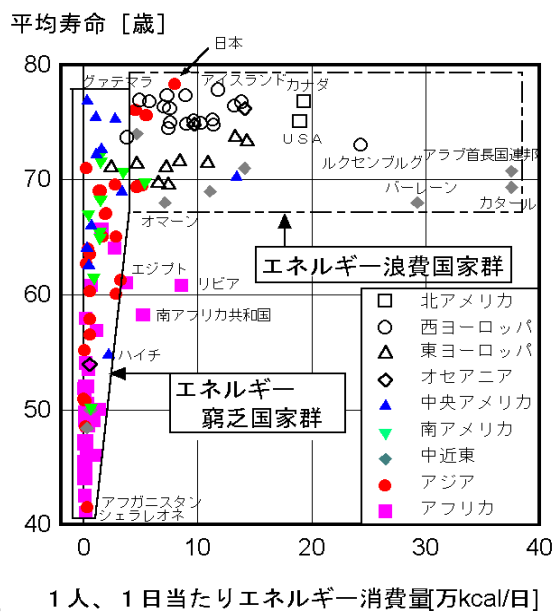
1. 「人と自然との共生」

21世紀の国土利用計画の策定／「人の生き方」の提案／未来社会のデザイン
最大の焦点はエネルギー問題。(以下の図は小出裕章さんHPより転載)



日本におけるエネルギー消費量と寿命の関係

日本国勢図会 1999,2000 (国勢社)、
総合エネルギー統計などのデータより作成



世界各国のエネルギー消費量と

平均寿命の関係(1990年)

矢野恒太記念会編、「世界国勢図会、'94/95」、
国勢社(1994)のデータより作成

「脱・原発」という現代日本の最大の課題を無視して「生物多様性」を議論しても社会的訴求力に欠ける。人が自然にどんどん罹災していく、放射能被災列島であることの自覚なしに、生き物について語れまい。

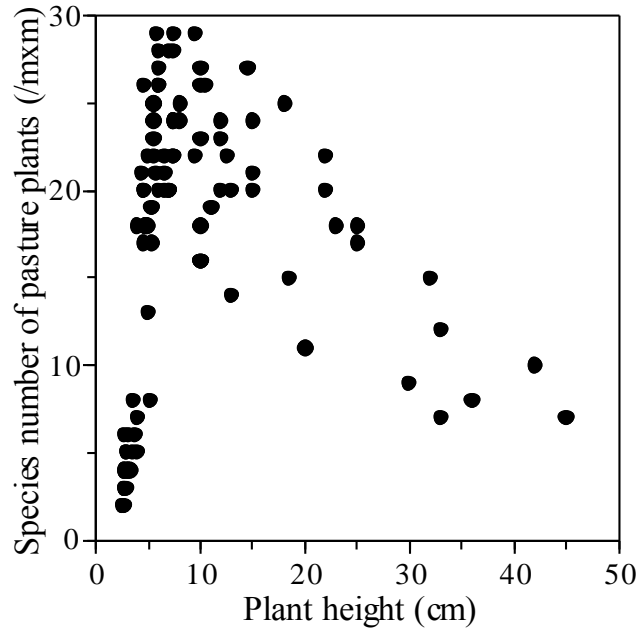
2. 教育プログラム「メダカ甲子園」方式

全国規模で、自然観察学習の一環として、メダカなどの絶滅危惧種について、課題に取り組んでもらい、優秀な取り組みを表彰する。優勝した地域チームの子どもたちには「日の出」をプレゼントする。地域選抜は、地域間連携に。

この活動に、科学者やサイエンス・コミュニケーターが参加し、科学の楽しさを伝える。サイエンス・コミュニケーターの人材を養成する。

3. SATOYAMA の概念

概念としての「里山」は世界中に異なる形態で見出すことができる。
たとえば、モンゴルの場合は草原（以下の図は藤田昇より）



ラオスの場合は池（首都ビエンチャン郊外にある野生イネの多様性が確保されている）

